

Pick Up

今月のイベント

オリンピックデー・フェスタ in 猪苗代



日本オリンピック委員会(JOC)による「オリンピックデー・フェスタ in 猪苗代」は1月20日、リステルスキーファウンタジアで開かれ、参加した115人の小学生が五輪選手らと交流を深めました。

この日参加したアスリートは、ロンドン五輪ボクシング男子フライ級に出場した須佐勝明さん(会津若松市出身)、同五輪ボクシングバンタム級銅メダリストの清水聡さん、競泳の中村真衣さん、アルペンスキーの岡部哲也さん、クロスカントリースキーの猪又由美さん、スノーボードの野藤優貴さんの6人。子どもたちとともに「雪玉入れ」「雪上フラッグ」「ソリリレー」などに挑戦し、雪上での楽しいひとときを過ごしました。

このイベントには町内の児童約40人も参加。開会式では吾妻小6年の大島萌さんが「今日一日、全力で楽しむことを誓います」と元気に宣誓しました。

参加した齋藤佑名さん(緑小2年)は「水泳をやっているので、中村選手と遊べて楽しかったです。今度は水泳を教えてもらいたいです」と話しました。

イベント開催を記念して、JOCと日本財団からスキー板とビンディングのセットが町に贈られることになりました。

特集

ぼくたちの願い

「ぼくたちの願いは、美しい猪苗代湖を取り戻すこと」「家族や地域の皆さんの協力がなければ、あの美しい猪苗代湖を取り戻すことはできません」「ぜひ、皆さんの力を貸してください」

これは、昨年11月14日に会津若松市で開かれた、猪苗代湖環境保全推進連絡会「子ども交流会」での1コマです。参加した翁島小学校の児童たちは大きな声で訴えました。

今月号では、猪苗代湖を取り巻く現状を紹介するとともに、「日本一きれいな猪苗代湖」を取り戻し、次の世代へと引き継いでいくために、わたしたちはどう行動すべきかを考えます。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Feb.2013
2
No.628

今月の表紙



【撮影日】 1月10日
【撮影場所】 猪苗代警察署

「110番の日」の1月10日、猪苗代幼稚園の園児2人が一日警察署長を務めました。委嘱を受けたのは、伊関拓也くん(左)と高橋樹香さん(右)。警察署で委嘱状を受け取ると、署長に敬礼し、スキー場での啓発活動に元気に出発しました。

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 特集 ぼくたちの願い
- 12 成人おめでとうございます
- 14 フリースタイルスキーワールドカップのお知らせ
- 15 町立病院からのお知らせ／町民意見箱を設置
- 16 スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO
- 18 まちのわだい
- 20 笑顔でこんにちは／猪苗代そば紀行／保健だより
- 22 学びの泉
- 24 いなわしろタウンページ
- 26 暮らしの情報広場
- 28 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

【猪苗代湖】
福島県のほぼ中央に位置する湖で、猪苗代町、会津若松市、郡山市に囲まれる。面積103.3㎡、日本で4番目の大きさを誇る。周囲50.4km、最大水深93.5m、貯水量約38.6億㎡

猪苗代湖の現状

数年前、日本一だったその水質が突然ランク外に。湖ではいったい何が起きているのでしょうか。

日本一から突然「ランク外」に

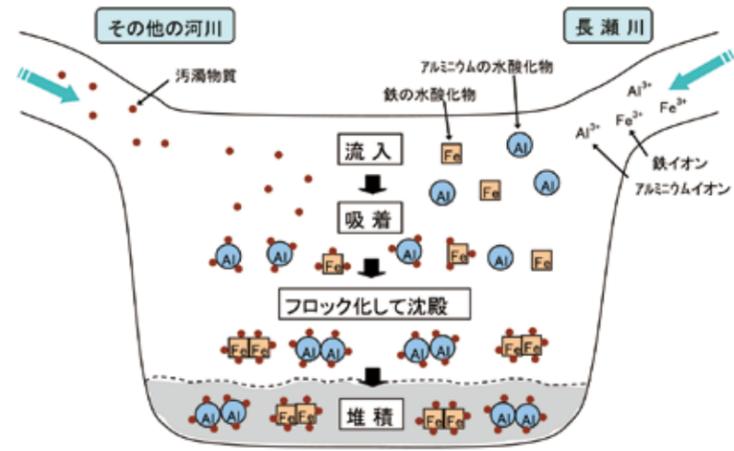
猪苗代湖は、湖水浴やマリンスポーツ、キャンプなど、毎年多くの人が訪れる、福島県を代表する観光スポットです。その水は水力発電やかんがい用、水道用の水としても利用され、町

だけでなく、県にとっても極めて重要な水資源・観光資源です。この湖は、わたしたちに多くの恩恵をもたらしてきた、県民の大切な財産です。しかし、その輝きは今、失われつつあります。かつては透明度27・5層を記録したこともあるこの湖。環境省の全国湖沼水質ランキングでは、平成14年から17年まで4年連続日本一でした。ところが、18年に大腸菌群数が環境基準を超えたため、評価の対象外（ランク外）になってしまいました。20年には環境基準を満たし、2位にランクインしたものの、翌21年には、またしても環境基準を超過。以来ランク外が続いています。

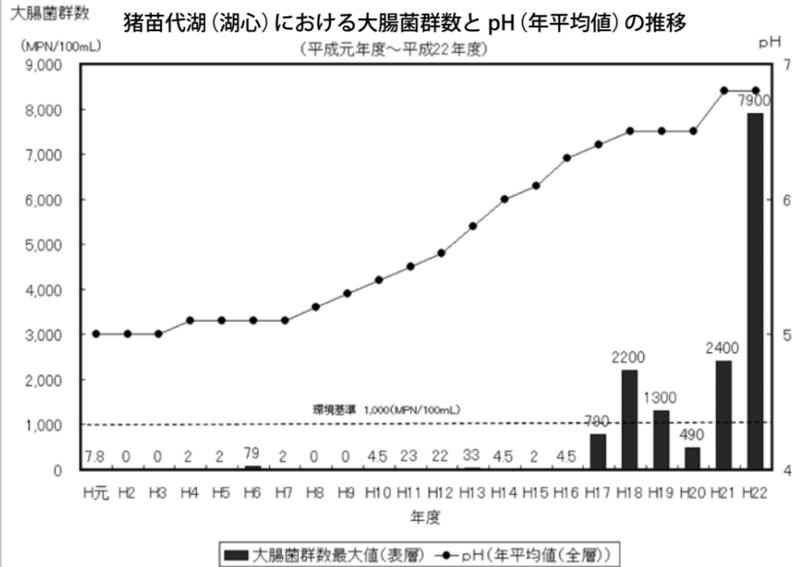
湖の浄化機能

猪苗代湖の水質が良好なのは、湖水に自然の浄化機能（上図参照）があるからだと言われています。流入する長瀬川の水は硫酸を主成分とする強い酸性で、鉄イオンやアルミニウムイオン

猪苗代湖の水質浄化イメージ



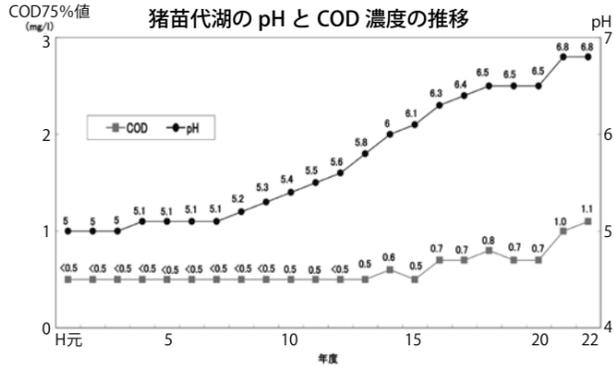
※長瀬川から流入する酸性水が中和される過程で生成される鉄やアルミニウムの水酸化物が汚濁物質を吸着して沈殿する。



泳いでも大丈夫なの？

猪苗代湖では、14カ所の湖水浴場について、毎年、遊泳前や遊泳期間にふん便性大腸菌群数を調査していますが、これまで基準を超える数値は検出されおらず、ふん便性大腸菌による汚染の問題がないことを確認しています。

※参考「大腸菌群数」について
大腸菌群と大腸菌とは異なるものであり、環境中の大腸菌群として検出される細菌は、土壌や汚染に由来する細菌(バクテリア)がほとんどで、人や動物のふん便に由来する大腸菌は少数です。



などの金属成分が多く含まれています。その水が湖水と混ざり合う過程で、これらのイオンが汚濁物質を吸着、沈殿して水がきれいになるといいます。
水質悪化の原因と現状
平成8年以降、湖の水は中性化が進み、5程度だったpH(※注)が22年には6・8まで上昇しました。これに伴い、浄化機能が低下したことが水質悪化の一因と考えられています。PHの上昇とともに、湖の汚れを示す指標のCOD(※注)は上昇し続け、大腸菌群数も増加の一途をたどっています。

過去の全国湖沼水質ランキング

年度	1位	2位	3位
平成14	猪苗代湖 0.6 支笏湖 0.6 夏瀬ダム 0.6 神城ダム 0.6		
平成15	猪苗代湖 0.5	支笏湖 0.7 磐梯五色沼湖沼群 0.7	
平成16	猪苗代湖 0.6 鉦端ダム 0.6		支笏湖 0.7 磐梯五色沼湖沼群 0.7
平成17	猪苗代湖 0.7 支笏湖 0.7 俱多楽湖 0.7 坂本ダム 0.7		
平成18	鉦端ダム 0.5	支笏湖 0.6	磐梯五色沼湖沼群 1.0
平成19	支笏湖 0.6	磐梯五色沼湖沼群 0.7	有峰ダム貯水池 1.5
平成20	支笏湖 0.6	猪苗代湖 0.7	俱多楽湖 1.0
平成21	支笏湖 0.6	深川ダム貯水池 0.8	然別湖 1.4
平成22	支笏湖 0.6	然別湖 1.7	川治ダム貯水池 1.8 川俣ダム貯水池 1.8 有峰ダム貯水池 1.8
平成23	支笏湖 0.6	俱多楽湖 0.9	然別湖 1.6

環境省ホームページ「公共用水域水質測定結果」から転載

用語解説

【pH】
水の酸性とアルカリ性の度合いを表す指標。中性の水はpH 7で、7よりも小さいものは酸性、7より大きいものはアルカリ性という。通常の淡水はpH 7前後、海水はややアルカリ性でpH 8前後。

【COD (化学的酸素要求量)】
Chemical Oxygen Demand の略。水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素の量で、湖沼、海域の有機汚濁の程度を示す代表的な指標。水1リットル当たりのミリグラム数で表す。単位はppm。この値が大きいほど有機物が多く、汚れていることを示す。

子どもの頃遊んだ砂浜はなくなってしまった

私たちが子どもの頃、湖の北岸は砂浜で、そこで泳ぐことが楽しみでした。水は美しく、沖でくんできた水でジャガイモなどをゆでて食べたものでした。魚や貝もたくさん生息していて、シジミも採れました。ナマズやウナギなどもよく捕れていたようです。

当時、環境汚染は大都市や工場地帯の問題で、猪苗代のような自然に恵まれた地域では深く考えなくてもいい時代でした。生活環境も今とは全然違いました。例えば、洗剤には今のように入合成洗剤などではなく、せっけんを使っていました。次第に生活環境が変わり、家庭からは自然の浄化作用では補いきれない排水が出されるようになりました。一時期、湖は「ごみ捨て場」のような感覚もあり、ポイ捨てだけでなく、粗大



猪苗代湖の自然を守る会代表 鬼多見賢さん

ゴミも捨てられていました。このような状態が長い間続いたため、湖の富栄養化が進み、北岸にはヨシやヒシなどが繁殖するようになってきました。今では下水道も整備されてきましたので、排水の問題も徐々に改善されていますが、まだ一部の地域では改善されない部分があります。現代では私たちが加害者であり、被害者なのです。私の計算では、北岸全域で毎年10万羽の鳥が死んでいます。今は少しでも汚染が進まないようにすることが大切なのではないでしょうか。私たちの努力は0・1ミリにも満たないわずかなものかもしれませんが、汚染が進まないようにと活動に取り組んでいます。汚染に歯止めをかけるには、一人でも多くの人が湖の現状を理解し、意識を変えていくことが大事ではないでしょうか。私もかつては湖にゴミを捨てていた一人です。今はその罪滅ぼしとして湖の環境保全に努力しております。

水質改善に向けた取り組み

現在、猪苗代湖の水質改善のため、行政機関や学校、企業や関係団体などにより、さまざまな活動が展開されています。その一部を紹介いたします。

猪苗代湖の水質がランク外となつて以来、水質改善に向けた取り組みは活発化しています。以前から実施されていた湖岸クリーンアップなどの清掃活動に加え、近年では、水質汚濁の一因にもなっているヨシやヒシなど、水生植物の除去作業も盛んに行われるようになりました。活動に取り組む団体も年々増加しています。行政機関や学校、地元の関係団体などのほか、コスモ石油や日本アムウェイなど、企業も活動を展開。産学官民が一体となつて水質改善に取り組んでいます。

- 1 昨年8月5日に実施した湖岸クリーンアップ作戦。約200人の参加者が天神浜と松橋浜に分かれてごみを拾い集めた。猪苗代中の生徒や保護者らも参加した
- 2 昨年9月29日のヒシ刈りの様子。水や泥で重くなったヒシを取り除くのは大変な作業
- 3 昨年8月25日、サイクリングロードで実施されたコスモ石油のコスモアースコンシャスアクト・クリーンキャンペーンの様子



24年度みんなで守る美しい猪苗代湖環境保全事業
県民ボランティアによるヨシ刈りおよびごみ撤去作業

猪苗代湖北岸部のヨシ群落には、湖内に流入した窒素やリンなどの汚濁物質を吸収し、湖の水質浄化に役立つ機能があります。一方で、ヨシ群落には大量の漂着ごみが堆積して水質汚濁の一因にもなっています。ヨシ群落の水質浄化機能を効果的に発揮させ、猪苗代湖の環境保全対策を推進するには、ヨシ群落を適切に保全・管理していくことが重要です。

そこで、県民や事業者、行政、関係団体などが一つになつてヨシの刈り取りやごみ撤去を行うことにより、県民の財産で象徴でもある猪苗代湖の良好な水環境を保全しようとして私たちは動き出しました。昨年10月31日、



猪苗代町企画財務課長 五十嵐 秀一

北岸の大規模なごみの撤去作業は今回で5回目となり、おかげさまで年々ごみの量は減少しています。回収したごみの量は約1・7トでした。(前回平成22年度 2・5ト)

私たちの財産である猪苗代湖を美しいまま将来の世代に引き継いでいくため、地域の方々と行政などが連携を強化し、水環境保全対策を一層推進していくことが重要です。



ヨシ刈りの様子

湖の水質を守ることは、私たち町民の務め



ロータリー猪苗代湖環境協議会 中村 岳嗣 事務局長

ロータリー猪苗代湖環境協議会は、猪苗代湖の水質がランク外になったのをきっかけに、水質日本一を取り戻すために県内の全てのロータリークラブが5年間行動する体制です。地元である猪苗代ロータリークラブが事務局を担当しています。

メインの活動は、「清らかな湖、美しい猪苗代湖水環境研究協議会」と共に取り組む天神浜、松橋浜の漂着した水草の回収です。この取り組みの良いところは、多くの人が参加でき、人が集まるほど効果が上がることです。決定打にはなりません。少しずつ成果が上がればという思いで取り組んでいます。参加者には中通りの企業・団体や学生など、町外の人が多かったように思います。県内各地のロータリークラブも参加しています。いわきや福島など、水系

湖の水質は、最近変化したのではなく、悪化が突然人間の目に見えるようになってきたのだと思います。努力せずにきれいだつたものが、無関心だつたがゆえに、きれいでなくなつてしまいました。今まで蓄積してきた水質への負荷は大きく、簡単にはきれいにならないかもしれません。行政による具体的な対策も必要と思います。

猪苗代湖は水質でもありません。私たちが町民はこの水を飲みませんが、庭の池はきれいにしておきたいものです。町民が水質浄化の意識を高め、ごみや雑草、排水は極力流さないようにしたいものです。できることを始める時期ではないでしょうか。

天神浜、松橋浜の水草回収

昨年は延べ約1,700人が参加した一大プロジェクト。キーマンである主催団体のお二人に話を伺いました。



昨年9月29日の水草回収の様子。この日は吾妻中の生徒や保護者らも参加した

湖のことを理解し、水質改善のための行動を

湖の北部水域に自生する水草などは、枯死すると水中の有機物であるCOD濃度や窒素・りんなどの栄養塩類濃度を高め、湖の水質汚濁を進めてしまいます。「清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会」では、猪苗代湖の水質改善のため、湖北岸の水草回収に取り組んでいます。平成22年からはロータリー猪苗代湖水環境協議会と協働して実施しています。ロータリー会員の皆さんは、毎回、活動開始の2時間前に集合し、積極的に器材準備などに取り組んでくれています。

昨年は、9月1日から11月4日までの毎週土・日曜日、天神浜と松橋浜で実施しました。18日間で延べ1695人が参加し、合計184㎡の水草を回収することができました。参加者数も



中村 玄正 さん

日本大学名誉教授、同大学工学部 上席研究員。工学博士。「清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会」の会長を務める。

によるヒシの回収や県などによるヨシ刈りも実施されていますが、我々の水草回収も含めて、まだ十分な量とはいえません。猪苗代湖の恩恵にあずかっている皆さんには、湖で起こっていることをしっかり理解し、水質改善のために行動してほしいと思います。



表彰式に出席した児童ら

翁島小学校が 環境大臣賞



アサザ移植活動の様子

環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組む、地域の環境美化に貢献している小、中学校などを表彰する食品容器環境美化協会の環境美化教育優良校等表彰。その表彰で、翁島小学校が最優秀校に贈られる環境大臣賞に輝きました。

同校は全校児童で猪苗代湖岸のクリーン作戦を実施。また、猪苗代湖の自然を守る会などと協力して、刈り取ったヨシやヒシを堆肥化し、水質浄化に良いとされるアサザを育てて湖に移植するなどの活動が評価されたものです。

表彰式は2月1日、東京都の浅草ビューホテルで行われ、同校からは橋本千賀子校長、渡邊美智子教諭と児童代表の鈴木隆雅さん、本間洋加さん、鈴木乃愛さん、古川顕志郎さんが出席しました。

同校の児童らは2月5日、受賞報告のため町役場を訪問。児童たちは「努力が実った。後輩たちも水質日本一のために頑張ってほしい」と受賞の喜びを語りました。橋本校長は「今後も湖を大事にする気持ちを育てていきたい」と話しました。

今、わたしたちに できること

清掃活動などに参加できなくても、湖をきれいにするためにできることがあります。

県では、国民共有の財産である猪苗代湖および裏磐梯湖沼群の水環境を美しいまま将来の世代に引き継いでいくため、猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画を策定しています。

その中で、県民や事業者、行政が連携して水環境の保全に取り組むための行動事例として、行動指針を定めています。指針で掲げるものうち、今すぐに実践できることを紹介します。

県民の取り組み

【家庭での取り組み】

- 水質浄化
 - ① 下水道の未整備地区では、窒素・りん除去型浄化槽の設置に努める（※条例改正により、下水道の未整備地区には4月1日から窒素・りん除去型浄化槽の設置が義務付けられます）
 - ② 浄化槽を設置している場合は、法定検査を受けるなど、適正な維持・管理に努める
 - ③ 下水道が整備された地区では、速やかな接続に努める
- 汚水の流出防止
 - ① 台所の流しには、ろ紙袋をかぶせた三角コーナーや目の細かいストレーナーなどをつけ、調理くずや食べ残しを流さないようにする
 - ② 米のとき汁は、庭木や花壇にまいて肥料として利用する
 - ③ 天ぷら油はこし紙などで汚れを取り除いて繰り返し使用し、やむを得ず捨てる場合は、古紙やぼろ布などにしみこませたり、市販の油固化剤を使用し、燃えごみとして処理する



油を流しに捨てるのは厳禁です



ひどい汚れは、洗う前にふき取りましょう。流す汚れが少なくなるだけでなく、使う洗剤も減り、節水にもつながります



風呂の残り湯は洗濯などに使いましょう

④ 食器や鍋などのひどい汚れや油をゴムべらなどでふき取ってから洗う

⑤ 洗剤を必要以上に使わない

● 節水、水循環
風呂の残り湯は洗濯に使用するなど、有効に使う

【地域での取り組み】

● 地域の清潔保持

① 空き缶やたばこの吸い殻など

のポイ捨ては絶対にしない

② 洗車は排水処理施設を備えた駐車場で行い、自宅で洗車するときは、バケツに水をくんで行うなど節水に心がける

③ 用水路などの清掃時にごみを回収するとともに、刈り払いを行ったときに出る雑草類を水路に流さないようにする

● レジャーなどでの水域利用

① ごみや花火の燃え残りは持ち帰る

② キャンプ場では、できるだけ洗剤を使わないなど、水を汚さないようにする

● 農作業時の注意

① 水田の代かき後に浮いた稲わらなどは極力すくい取り、水路に流さないようにする

② 施肥および用水の管理を適切に行い、農用地から公共用水域への窒素・りん排出を少なくするよう努める

事業者の取り組み

● 組織づくり、従業員教育
湖岸や市街地、道路側溝、河川の清掃など、地域の環境保全活動に積極的に取り組むとともに、従業員が自発的に活動に取り組むことを推奨する

● 工場・事業場における排水の適正処理

① 排水を下水道に排除している事業場では、下水道への排除基準を順守する

② 廃水処理施設の維持管理を業者に委託する場合でも、点検時に立ち会うなど、管理を任せきりにしない

③ 排水の水質測定を自主的かつ定期的に実施し、排水基準に適合していることを確認する

④ 放流先の河川などの状況を確認し、排水による影響の有無を確認する

水を汚していませんか？

私たちが何気なく流している生活雑排水ですが、これを魚がすめる程度の水質に薄めるには、浴槽何杯分も水が必要になります

食品の種類	使用済み天ぷら油	牛乳	ビール	みそ汁(じゃがいも)	米のとき汁(1回目)	シャンプー台所洗剤
捨てる量	20mL	コップ1杯 200mL	コップ1杯 180mL	お椀1杯 180mL	500mL	1回分 4.5mL
汚れ(BOD)の程度(おおよその濃度)	1,500,000 mg/L	800,000 mg/L	840,000 mg/L	約 39,000 mg/L	12,000 mg/L	220,000 mg/L
薄めるのに必要な水の量(浴槽で約何杯)	20杯	11杯	10杯	4.7杯	4杯	0.67杯

【注】魚がすめる程度の水はBOD5mg/L、浴槽1杯300Lとして計算
出典：環境省「生活排水対策推進指導指針」

水環境保全のために
ご協力をお願いします



福島県 水・大気環境課
しげき 関根 重樹 主査

県では、猪苗代湖や裏磐梯湖沼の水環境悪化を未然に防止し良好な水環境を将来にわたって保全していくため、平成14年3月に「福島県猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例」を制定するとともに、同条例に基づき、「猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画」を策定し、水環境保全対策の総合的な推進を図ってきました。

しかし、猪苗代湖においては、近年、湖水の中性化に伴い、猪苗代湖特有の自然浄化機能が低下しCODが上昇するとともに、大腸菌群数が水質環境基準を達成しないなど一層の水質保全対策が喫緊の課題となっており、県では23年3月に県民、事業者、県及び関係市町村等が一体となって課題に取り組んでいくため計画の改定を行いました。

改定した計画では、生活排水対策や水生植物による水質改善などのほか、県民が一体となった水環境保全活動を重点的に進めていくことにしています。

なお、23年3月11日に発生した東日本大震災による影響を踏まえ、放射性物質汚染に係る施策を追加した計画の一部改定を行うこととしており、引き続き、関係機関と連携して計画の推進を図ってまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



「きれいな猪苗代湖」はわたしたちみんなの願いです。
 日本一きれいな猪苗代湖を取り戻し、もう一つの宝、
 次代を担う子どもたちに引き継いでいくために、
 できることから始めませんか。

猪苗代湖は町の宝。

参考 福島第一原発事故に伴う放射性物質モニタリング結果

猪苗代湖水質モニタリング結果(24年9月～11月)

町内6カ所の採取地点(※注)すべてにおいて、放射性ヨウ素(ヨウ素131)、放射性セシウム(セシウム134、セシウム137)は不検出(1㍻当たり1ベクレル未満)でした。【採取地点】①湖心、②高橋川河口、③小黒川河口、④天神浜、⑤菱沼川、⑥安積疏水取水口

猪苗代湖底質モニタリング結果一覧(24年9月～11月)

(放射性物質濃度 Bq/kg)

採取地点	24年9月				24年10月				24年11月			
	放射性ヨウ素I-131	放射性セシウム			放射性ヨウ素I-131	放射性セシウム			放射性ヨウ素I-131	放射性セシウム		
		Cs-134	Cs-137	合計		Cs-134	Cs-137	合計		Cs-134	Cs-137	合計
湖心	< 30	96	190	286	< 30	42	91	133	< 30	21	55	76
高橋川河口	< 30	30	56	86	< 30	61	93	154	< 30	100	170	270
小黒川河口	< 30	70	130	200	< 30	26	50	76	< 30	69	110	179
天神浜	< 30	44	67	111	< 30	44	66	110	< 30	35	64	99
菱沼川河口	< 30	32	51	83	< 30	42	66	108	< 30	14	25	39
安積疏水取水口	< 30	45	81	126	< 30	44	74	118	< 30	41	74	115

環境省ホームページ「東日本大震災の被災地における放射性物質関連の環境モニタリング調査結果：公共用水域」から転載

輝く湖を次の世代へ残すために

猪苗代湖は、自らの持つ浄化機能で、きれいな水を守り続け、県民や訪れた人たちに憩いの場を与えてきました。また、水力発電やかんがい用・水道用の水源に活用され、私たちの生活において重要な役割を果たしてきました。この当たり前のような存在の尊さに気付かず、私たちは長い間、生活排水をたれ流し、ごみや草などを川に捨てていました。現在の湖の状態は、そうした私たちの無関心が招いた結果であるといえます。

水質がランク外となり、私たちは湖がいつまでもきれいなままではないということを知りました。湖に対する意識も変わってきています。しかし、湖の汚濁は確実に進んでいます。多くの人たちが水質改善に取り組んでいる今もなお、汚濁に歯止めはかかっていません。

自然の浄化機能といっても、本当は水がきれいになるわけはありません。汚れが湖底に沈んでいるだけなのです。さまざまな要因から、今はその機能が低下し、何もなくてもきれいな湖は失われつつあります。湖は、水が長くどどまるその

性質から、一度汚れると元に戻すことは難しいと言われています。これは、他の多くの湖がそうであることから明らかです。これも自然の赴くままの姿といつて見守るだけでいいのでしょうか。

取り返しがつかなくなる前に、私たち一人一人の意識を変えて水を汚さない努力が必要です。湖をきれいにするのは難しいかもしれませんが、水質改善に取り組む人たちは「すぐにはきれいにならない。良くなっているかどうかはわからないが、少しでも汚濁が進まないようにしなければ」と言います。中には「水質は良くはならない」と言い切る人もいます。それでも彼らはあきらめることをしません。

湖に変わりはなく、毎日のように足を運ぶ人がいます。週末になる度、湖岸に流れ着いた重い水草を運ぶ人がいます。大人が捨てたたばこの吸い殻を拾う子どもたちがいます。この努力が報われる日はいつか必ず来るはず。磐梯山を映す鏡をいつまでも見られるよう、今何をすべきか考えてみませんか。

猪苗代湖について学ぼう

猪苗代湖の歴史と古環境に関する講演会と学習会

福島大学では、去年9月から11月にかけて、猪苗代湖の湖心部(水深90m地点)で湖底堆積物のボーリングを行いました。この堆積物から読み解く猪苗代湖の歴史と古環境について、講演会と学習会を開催します。猪苗代湖の誕生と歴史の謎解き、そして古環境の復元の方法について一緒に考えませんか。

●日程：3月9日(土) ●場所：学びな
 ●時間：午後1時～午後4時

●内容：講演会「湖底堆積物から読み解く猪苗代湖の誕生と歴史」(講師：福島大学共生システム理工学類教授 長橋良隆氏)
 学習会「湖底堆積物の見学：見て触って臭いもかごう」「火山灰の鉱物観察」「珪藻化石の観察と水環境」など
 ●対象：小学生以上ならどなたでも参加できます
 ●問い合わせ先：福島大学共生システム理工学類
 ☎ 024(548)8193